



和束の茶畑で 足腰鍛える



和束町国民健康保険運営協議会会長

中 井 喜 彦 氏

現在66歳。和束町議会議員として16年間務めあげた後、町長の要請を受け国保運営協議会の会長職に抜擢された。現在は要職の他、家業であるお茶の栽培と製造で一線は息子に任せているものの、バリバリ現役で働いている。

「性格は能天気です、身体も血圧がちょっと高めなぐらいで健康です。家系の中では長生きだし、いつ逝ってもいいです。」

自身で言う通りとても自然体なひとだ。

父が早世したので、中学生のころから確定申告に行ったり、親代わりとして弟の学校のPTAに出席するなど、家庭の大黒柱として支えてきた。

家族に頼まれ茶農家を継いだが、本当はエンジニアになりたかった。今も農業はあまり好きじゃないと笑うが、花粉症に効果のある緑茶の栽培に取り組むなど研究熱心だ。目下の課題は、自然な環境に恵まれた品質の良い和束茶を売りこむ場がなかなか無いということ。

「自慢のお茶を提供できる場所があればいいですね。」

若いころから体を動かすことが好きで、50歳ごろまで趣味の野球チームでプレーしてきた。現在プレーはしていないが、スポーツ全般に観ることは好きで、特に大好きなラグビーの話をする時は声が弾んだ。

「普段はこれといった健康法はしていませんが、茶畑の仕事では足腰にかなり負担がかかる。その分鍛えられたのかな。」

確かに、転げ落ちそうな山の斜面にまで茶畑がいくつもあった。なるほど特に運動していなくても自然と筋力が鍛えられるのだなと納得する。丈夫でなければできない仕事だ。

茶所の和束町では町役場で頂くお茶もおいしい。いつもできたての新鮮なお茶を飲めるのはいいですねと言うと、

「そんなに良くないお茶でも70度くらいのお湯で入れると、あまり渋みが出ずにおいしく飲めますよ。」

さすがお茶農家の人だと感心していたら、まあ私も急須のお茶は1日に一杯飲むか飲まないかけど、と笑顔で答えた。